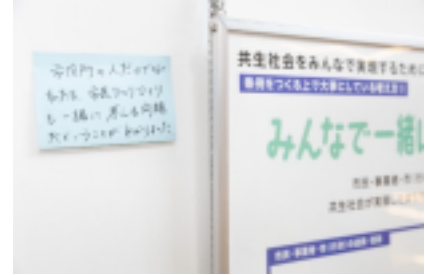


オープンハウスの開催結果について

8月4日（日）に開催した「共生社会バリアフリーシンポジウムin札幌」の同時開催イベントの一環として、「共生社会の実現に向けた意見募集ブース」を設置。

当該ブースでは、（仮称）共生社会推進条例の骨子案を紹介するパネルを展示の上、付箋や意見シートで自由に意見を書き込めるようにし、イベント参加者を始め多くの方からご意見をいただいた。



1 オープンハウスの概要

(1) 名称

共生社会の実現に向けた意見募集ブース

(2) 開催日時・会場

ア 日時

令和6年8月4日（日）10:00～18:00

イ 会場

D-LIFEPARK（中央区北3西4 D-LIFEPLACE札幌 地下1階）

(3) 参加者・参加人数

ア 参加者

イベント参加者を含む市民等

イ 参加人数(付箋等の数)

172

2 開催に当たっての工夫

（仮称）共生社会推進条例の骨子案を分かりやすく紹介するため、パネルについては可能な限り分かりやすい言葉への言い換えを意識したほか、イラストを多用し、子どもにも目をとめていただける内容とした。また、意見を気軽に記入していただけるよう、付箋をパネル横に順次貼り付けていく手法を主とした。

※パネルの内容については下記4に掲載



3 主な参加者の声（抜粋・要旨）

（1）（仮称）共生社会推進条例の全般に関する意見

- ①条例をつくって終わりにしない。
- ②条例がなくても誰もが周りを気にすることなく生活できることが究極の目標だと思う。
- ③1日も早くできた方が良いと思う。
- ④共生社会を実現するための条例は大事だと思う。
- ⑤これから障がい者を含む高齢者が増えるので、一過性のものにならず、長く・充実した取組となってほしい。
- ⑥子どもが暮らしやすい札幌市をみんなで作ろう。
- ⑦難しい言葉を使うから、結局何を目指しているか分からない。具体的な目標を掲げてほしい。
- ⑧なぜ条例なのか。国政ではないのか。

（2）多様性の尊重に関する意見

- ①個性を大事にしていくことが大切だと思う。
- ②自分を基準に考えてしまいがちだが、少しでも相手の立場に立って考えることが重要だと思う。
- ③人を大切にできる、相手の立場に立って考えられる札幌になってほしい。
- ④好きなことや苦手なことは人それぞれだが、お互い歩み寄れたら良い。
- ⑤身近な人に対象者はいないと思っていたが、市民皆が対象なのだと考えを変えた。
- ⑥色々な人がいることを皆が理解してほしい。
- ⑦違いを認め合うことが大事。
- ⑧「みんな違ってみんないい」というよりは、「みんな違って当たり前」の社会へ。
- ⑨人と人が触れ合うことで学ぶことがある。少しでも触れ合う機会を自ら設けることが大切。
- ⑩お互いを理解するのは難しいが、寄り添い合うと思う気持ちがあれば大丈夫。
- ⑪自分の価値観が当たり前ではなく、他を認め合うことにより、共生社会に一步近づくと感じた。
- ⑫人それぞれ個性がある。それは人の数だけ多数にある。「誰もが」は可能なのか。

（3）包摂的なまちづくりに関する意見

- ①皆が暮らしやすい社会になれば良いと思う。
- ②「生きにくい」「行きにくい」が少ない世界になってほしい。
- ③インクルーシブな社会が実現していくと良い。みんなが暮らしやすい札幌市になりますように。
- ④誰一人置き去りにしない社会の実現を目指し、頑張っていこう。
- ⑤障がいも様々あり、同じ障がいでもそれぞれ違う。自分らしさを大切に。

- ⑥自分を大切に、他者を大切にできる世界になってほしい。
- ⑦不便を解消して、様々な生きづらさを軽減する方法を考えたい。
- ⑧相手のことを想像してちょっと勇気を出して声をかけてみるのが共生社会の第一歩。
- ⑨差別のない明るい社会で当事者が生きがいを感じられる社会になってほしい。
- ⑩差別や不平等などがないように皆で仲良く、障がいがある無しは気にしないで、皆で過ごしたい。
- ⑪ハンディがある人にやさしい街は、高齢者や健常者にとっても住みやすい街だと思う。札幌市が将来的にモデルケースになることを願う。
- ⑫年齢や性別、障がいの有無を問わず、共に支え合い、助け合えるより良い社会になるよう願う。それぞれができることは継続、できないことはフォローし合えることを期待する。人は一人一人が違うことを認めていこう。

(4) 市（行政）・市民・事業者との協働に関する意見

- ①障がいの有無に関係なく、皆が生きやすい社会に我々が「していく」ことが大切。行政任せではなく。
- ②協力し合えば良いと思う。
- ③行政と市民が協力して、より良い札幌にできたら一番良いと思う。
- ④市役所の人だけでなく、私たち市民一人一人も一緒に考える問題だということが分かった。
- ⑤行政と市民が協力できれば、より良い環境になると思う。
- ⑥皆がうまく連携して進めていくことを願う。

(5) 市の役割や基本的施策に関する意見

- ①施策は誰のため・何のために必要なのか、優先順位をしっかりとつけて進めてほしい。
- ②生きづらさを考える、伝えることが大切。
- ③専門分野の人だけが当事者のことを理解するのではなく、若いうちからそのような教育を少しでも受けられれば、もう少しアンテナが立つ人が増えると思う。
- ④心のバリアフリーが一人一人に浸透することが始めの一步と感じる。
- ⑤支援や制度を求めている人にしっかりと伝えられる広報活動を行ってほしい。
- ⑥バリアフリーの歩道やエレベーターがもっとあると良いと思う。
- ⑦何の障がいがある世の中にあり、どのように苦しんでいるかを知る機会が今後必要。
- ⑧行政（市）の役割を再確認し、担当部署だけでなく、全職員が認識を持つことが大切だと思う。
- ⑨誰もが過ごしやすい社会と口に出すのは簡単だが、今も教育は分断されており、共生の理念は遠く感じる。行政が率先して進めてほしい。

4 パネルの内容（計11パネル）

共生社会をみんなで実現するために

SAPPORO

考えてみよう！

まず、札幌市にはどんな課題があるのでしょうか？
 これまでも共生社会の実現に向けていろいろな取組をしていますが、
 例えば、次のような課題があり、それぞれが課題に関わり合っています。

札幌市が抱える主な課題

高齢者への応対

高齢になって自分らしく
過ごすことができる
といいよね！

2040年までに高齢者人口が20パーセントに
増加し高齢化率が高くなること予想されています。



障がいのある方への対応

障がいのある方にも
暮らしやすいまちづくりが
必要だよ！

障がいのある人にとって生活が暮らしやすいまちを
作ることが暮らしの質を高めることにつながります。



地域住民の定着

世代を超えて色々な人たちと
交流できる社会へ！

高齢で住み慣れたまちで生活が豊かになる
まちの環境をつくること、
地域課題を一緒に解決していくこと。



子どもの成長への対応

子どもたちが安心して過ごせて、
豊かに育つことができるまちへ！

子どもが安心して生活し、育ち、
成長できるまちの環境を
つくることが大切です。



多様な価値観の外国人の定着

外国人も過ごしやすく、
魅力あふれるまちに！

外国人が増えることにより多様な文化が
豊かになるまちづくり、
多様な価値観や文化を尊重し、
互いに学び合っていくこと。



男女が抱える課題の対応

男女がお互いを思いやることが
できる平等な社会に
なるといいよね！

職場や家庭内での
働きや役割に関する男女
の役割意識の対立を解消し、
男女ともに活躍できる社会を
実現していくこと。



アイヌ民族への応対

アイヌ民族の方も暮らしやすく、
アイヌ文化が尊重される
社会がいいよね！

アイヌ民族について知っていくことと
アイヌの暮らしや文化を大切にすることが
大切です。



共生社会をみんなで実現するために

条例をつくる理由

なぜ条例がいるの？

札幌市では、まちづくりの基本設計「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン（ビジョン編）」において、共生社会の実現に取り組んでいくことを定めました。

共生社会は市（行政）だけでなく、市民や事業者と一緒に目指していく必要があります。

SAPPORO

共生社会を一緒に目指していくために

**取組を進めていくための基本的な考え方
（基本理念）の共有が必要**



各関係者が、共生社会の実現に向けて基本理念等を共有した上で、連携し合いながら、それぞれの立場の中での取組を進めていくことが重要です。

条例では、共生社会の実現に関し、基本理念を定めるほか、市（行政）の役割・市民と事業者の役割を明確にするともに、市（行政）の基本目標等を定めたうえで示しています。

札幌市では、市民・事業者・市（行政）が一丸となって取組を進めていくことを目的として、現在、条例づくりを進めています。

共生社会をみんなで実現するために

未来をつくる上で大事にしている考え方①

SAPPORO

いろいろな違いを尊重する

人はみんな、いろいろな違いがあります。こうした違いについてみんなが理解を深め、誰もが自分らしく暮らし、活躍することができることが求められます。

ここからは、未来をつくる上で大事にしている考え方を
3つのバースンに分けてご紹介します。

バースン①

日々の暮らしに生きづらさ(バリア)を感じている方が多くいます

人は年齢・性別・性傾向や身体的特徴・障害の有無・国籍・民族・宗教・信条・文化など、多様な違いがあります。そして、この違いから生じる困難がやがて暮らし、時には健康や経済生活から生じる困難もあり得ます。



バースン②

誰もが自分らしく暮らし、活躍できるように

少子高齢化やバリアの存在、健康状態や生活環境の多様化などによって、誰もが自分らしく暮らし、活躍することができるとは限りません。



バースン③

全ての人には違いがある

お互いのちがいでこそ、多様な社会のありかたちや、誰もが同じような思いがある(共通点)があるといえます。



共生社会の実現に向けては、
いろいろな違い(多様性)の尊重が必要

※※※※、(誰もが当事者である)ことを前提として、みんなが対話を重ね、それぞれの違い等について理解を深め、交流を行うことができるような内容だとしたいと考えています。

共生社会をみんなで実現するために

SAPPORO

条例案③

それぞれの役割は？

条例では、市(行政)の責務、市民・事業者の役割を定めたいと考えています。

市(行政)の責務

施策を総合的かつ計画的に進めること

条例は、基本理念に基づき、共生社会の実現に向け、施策を総合的かつ計画的に進め、その効果を高めるものとする。



市民の役割

- ① 社会のあらゆる場面で共生社会の実現に向けた取組を行うよう努めること
② 市(行政)の施策に協力するよう努めること

市民は、基本理念に基づき、学校、職場、地域その他の生活の場における共生社会の実現に向け、取組を行うよう努めるものとする。
また、市が実施する共生社会の実現に向けた施策に協力するよう努めるものとする。



事業者の役割

- ① 活動に当たり共生社会の実現に向けた取組を行うよう努めること
② 市(行政)の施策に協力するよう努めること

事業者は、その活動を行うに当たり、基本理念に基づき、共生社会の実現に向け、取組を行うよう努めるものとする。
また、事業者は、市が実施する共生社会の実現に向けた施策に協力するよう努めるものとする。



共生社会をみんなで実現するために

SAPPORO

条例案④

市(行政)は何をするの？

共生社会の実現に向けて市(行政)が取り組む基本的施策として、次の6つを定めたいと考えています。

基本的施策

- ① 誰もが安全で安心な生活ができる多様性に配慮した施設等の整備



- ② 市民又は事業者が行う多様性に配慮した施設等の整備への支援

- ③ 日常生活又は社会生活上配慮を要する者の状況に応じた必要な支援

- ④ 個別の事業及び各種制度に係る分かりやすい情報提供



- ⑤ 誰もが互いにその違い等を理解し、支え合い、及び助け合う意識の醸成
その他共生社会の実現に向けた取組を推進するための啓発、広報活動等



- ⑥ その他共生社会の実現に向けて必要な施策

共生社会をみんなで実現するために

SAPPORO

条例案⑤

具体的に進めていきます

札幌市では、共生社会の実現に向けて、施策の推進体制を整備するほか、財政上の措置を講じて取り進めたいと考えています。

推進体制の整備

施策の推進体制を整備します。

条例は、共生社会の実現に向けた施策を効果的に実施するために、関係機関と連携し、及び関係する民間の推進体制を整備するものとする。



財政上の措置

財政上の措置を講ずるよう努めます。

条例は、共生社会の実現に向けた施策を実施するため、必要に応じて財政上の措置を講ずるよう努めるものとする。



〔条例〕札幌市共生社会推進委員会

新たに
(仮称)札幌市共生社会推進委員会を設置します

共生社会の実現に向けた施策の推進体制を強化するため、関係機関と連携し、及び関係する民間の推進体制を整備するものとする。



施行・期日

条例は、令和7年4月1日の施行を目指しています

条例案が令和7年第1回定例会で議決された後、条例の施行期日を決定し、令和7年4月1日の施行を目指す予定です。
また、関係機関と連携し、市民への周知徹底を図るものとする。